

庶務

1 消防の沿革

文化元年 11月29日 (1804)	西須賀大黒屋万三郎（旅館業）より出火、折からの強風に人家60余戸焼失、時の大庄屋阿賀佐平次、泉州堺より雲竜水を購入、火消しを組織化する。
文政12年 (1829)	久米通賢翁角山山ろくの湧水を利用し、竹管、木管、土管より市内の水道敷設を計画、安政2年に至り、時の塩庄屋宮崎駒吉、延長800間にわたり工事を完成。飲用、火災用に使用する。
安政3年 (1856)	高松藩塩買所の中仕衆による火消組誕生。塩田釜屋、塩倉等の火事の消火にあたる。
明治7年 (1874)	産塩石灰取扱所、南北に別れた北組に中仕、南組は浜人（塩業者）による二組の火消が生まれ、腕用ポンプを購入、義勇消防が生まれた。
明治16年	寄場（い組）、新浜（は組）が誕生した。
明治23年	公設消防組発足、新浜、内浜、東須賀、東寄場、横津、島津、谷内、御供所と組織化された。
昭和14年 4月 (1939)	警防団令が公布され、消防組を警防団と組織を新たにし分団、部と改称した（4分団15部制）。同年警防団本部にフォード製消防ポンプ自動車配置、戦時下の警防体制を強化した。なお、各部とも手引ガソリンポンプの切りかえを完了、一段と強化された。
昭和17年 7月1日	坂出町、林田村を廃し、市政を施行、6分団19部制となる。
昭和21年 12月21日	南海大地震により港湾など大被害を受ける。
昭和22年 5月	警防団は廃止となり、新たに消防団として6分団19部制580名で発足する従来の法被を廃し、スマートなジャンパー型制服とした。
昭和24年 2月 〃 9月1日	消防団本部にシボレー製消防ポンプ自動車購入、機関員1名常勤となる。市内田町市警察署階下に消防本部、消防署を設置し、名誉消防長1名、消防司令1名、消防士長2名、消防士2名、嘱託消防士5名をもって、坂出市消防本部として発足する。消防ポンプ自動車2台を保有する。
昭和25年 11月	速消車（ニッサン）購入、消防士6名増員。
昭和26年 3月	坂出電報電話局新築完成し、自動電話となり火災専用電話 1 1 9 番架設される。
〃 4月1日	加茂村併合、7分団24部制となる。
〃 9月4日	1 時10分頃、市内目抜き通り大黒町次郎坊（衣料品店）より出火。全焼4戸、半焼5戸、延468.6㎡消失、損害6,000千円の大火災発生、原因不明。
〃 9月27日	普通消防ポンプ自動車（ニッサン）を購入、消防署に配置、消防ポンプ自動車4台となり一段と強化される。
昭和28年 3月15日	消防士10名増員、消防署の強化を図る。条例定数25名とする。
昭和28年 4月1日 (1953)	与島村を合併、消防団の改組を行う。3分団22部制で300名を減じ、与島地区は自衛消防として公設外とする。

昭和28年 5月16日	鉄筋ブロック2階建、角型望楼付、延346.5㎡の近代的庁舎落成、京町2丁目に移転する。
〃 6月22日	水そう付消防ポンプ自動車（トヨタ）購入、消防署に配置、シボレー製消防車廃車と合せて中短波無線電話基地1、移動2局を開設強化を図る。
昭和29年 4月1日	府中村を合併、一部、団の改組を行い、5分団26部制となる。
昭和30年 1月1日	川津村を合併、6分団30部制となる。
〃 10月23日	ジープ型消防ポンプ自動車（ニッサン）購入、消防署に配置、シボレー製消防車廃車と合せて、中短波無線電話基地1、移動2局を開設強化を図る。
〃 10月23日	中短波無線電話移動局2基購入、増局する。
昭和31年 2月	日本消防協会より優良消防本部として竿頭綬を受ける。
〃 7月1日	松山村、王越村を合併、与島地区も併せて消防団の改組を行う。9分団40部制630名となる。
昭和32年 5月26日	8時50分頃（日曜日）市内文明町市立中央小学校新館校舎より出火、木造モルタル塗りセメント瓦葺2階建校舎延1,518㎡全焼、損害10,360千円、原因浮浪少年の放火。
〃 11月30日	18時30分頃、市内江尻町金山、市立病院金山分院病棟より出火、木造モルタル塗りセメント瓦葺平屋建病棟452.1㎡全焼、損害4,350千円、原因煙道の不良。入院患者多数いるも避難誘導がよく全員避難、死者、負傷者なし。
昭和33年 8月	火災専用119番の保留装置完成する。
昭和34年 3月	国家消防本部より優良消防団として、竿頭綬を受ける。
〃 4月1日	条例定数27名とする。
昭和35年 2月	日本消防協会より優良消防本部として、竿頭綬を受ける。
〃 5月	消防本部、署庁舎増築工事落成する。
昭和36年 4月1日	条例定数29名とする。
〃 12月	日本損害保険協会より火災保険号（ニッサン）の寄贈を受け、消防署に配置する。
昭和37年 4月1日	条例定数33名とする。
昭和38年 1月21日	2時50分頃、折からの烈風下（瞬間風速最大30mを記録）市内目抜き通り大黒町マーケットより出火、史上最大の大火となる。この火災を全焼9戸、半焼5戸、延1,649㎡消失に止め、消火に成功した功によりライオオンズクラブ及び市長より表彰を受ける。 損害57,170千円余り。
〃 2月2日	中央岸壁に接岸せる外国船の船舶火災発生17時30分頃より積載せるクズ鉄の酸化反応熱により5日間にわたり大燃焼を起こしたが、無事鎮火にいたらしめる。この活動に対し、リベリア船のスボチトバーラデニス船長より感謝状を受ける。

	船 籍	リベリア国	船 名	アフリカン・カント号
	屯 数	7,072屯	積 荷	クズ鉄
	数 量	10,750屯	損失クズ鉄	1,200屯
	損害額	船体積荷共合計	21,000千円	
昭和39年 9月21日 (1964)		0時10分頃、市内林田町、市立林田小学校より出火、木造モルタル塗りセメント瓦葺2階建校舎1棟、木造瓦葺平屋建校舎1棟、計2棟、延2,063㎡を全焼。損害14,890千円余り、原因漏電による出火。		
昭和40年 4月1日		ライオンズクラブより、トヨペットマスターライン型救急車の寄贈あり同日より救急業務開始する。		
〃	8月1日	条例定数35名とする。		
〃	9月10・24日	台風23・24号本市に大きな爪あとを残す。		
〃	10月11日	ニッサン普通消防ポンプ自動車（2段座席付）最新型を購入、消防署に配置する。同時、消防専用短波無線電話（移動用）を購入。全消防車に取り付け完了する。		
昭和41年 5月15日		番の州埋立地が御供所海岸と接続陸続きとなる。		
昭和42年 1月9日		救助隊を編成、レンジャー訓練を実施する。		
〃	3月27日	府中ダムの貯水を開始。		
〃	4月1日	坂出市危険物保安協会発足、事務局を消防本部に置く。		
〃	7月17日	17時55分頃、入船町2丁目2番14号、日本ヒドラジン工業株式会社坂出工場で爆発事故があり、重軽傷者8名、建物315㎡破損焼失、損害8,618千円。		
〃	10月1日	川崎重工業株式会社坂出工場より、水そう付消防ポンプ自動車（シャーシいすず4.2m、水そう容量2,500立）寄贈、消防署に配置する。		
〃	11月	ニッサンジュニア型普通消防ポンプ自動車を購入、消防署に配置する。超短波無線電話（5W）移動用2局及び携帯用（5W）2局新設、各車に取り付ける。		
〃	12月25日	番の州埋立てにより沙弥島が陸続きとなる。		
昭和43年 2月15日		61年ぶりの豪雪で商店街のアーケード倒壊する。		
〃	9月28日	番の州埋立てにより瀬居島が陸続きとなる。		
〃	12月28日	トヨタA型救急車購入、翌44年1月8日より救急車2台をもって業務にあたる。		
昭和44年 3月1日		番の州工業地帯造成に伴う消防団の近代合理化計画により分団改組を行い、番の州分団（3部6班制）を新設、10分団となる。同日付をもって西部分団を3部6班制に、与島分団を同じく3部6班制に、又中央分団4部7班制に改組される。なお、消防団員定員615名に改める。		
昭和44年 5月26日 (1969)		20時28分頃、文京町1丁目1番16号、山本プロパンガス爆発、死者1名、負傷者3名、木造2階建アパート2棟、延約300㎡を焼失、隣接する医院を一部類焼し、損害約12,200千円であった。		
〃	11月1日	条例定数40名とする。		

昭和45年 1月15日	消防本部機構改革なる。消防課、予防課、消防署の2課1署制とし、各課は課長、次席、係長、主任、係を置き、署は署長、次席、隊長、副隊長、隊員制となる。次長制は廃止される。
〃 4月	消防署員5名増員、消防力の強化を図る。
昭和46年 4月1日	消防本部機構改革により消防課に主幹、副主幹を置く。
〃 4月1日	坂出市と海上保安署の業務協定締結、海上消防の強化を図る。
〃 7月1日	条例定数45名とする。
〃 8月5日	皇太子ご夫妻、白峰御陵にご参拝、国民休暇村にご宿泊になる。警戒態勢をとる。
〃 10月22日	18時18分頃、昭和町2丁目6番12号、大阪紙工株式会社坂出工場火災、焼失面積1,652㎡、損害額98,277千円、原因紙屑焼却炉。
昭和47年 1月	消防職員3名、同年4月2名増員、消防力の強化を図る。
〃 2月17日	防衛庁補助事業として、水そう付消防ポンプ自動車（シャーシトヨタ、ホイールベース3.4m、水そう容量1,500立）購入、消防署に配置する。
〃 2月18日	化学消防ポンプ自動車（シャーシいすゞ、ホイールベース4.2m、水そう容量1,300立、3%泡原液1,200立、粉末消化剤90kg）消防署に配置する。
〃 3月1日	番の州地区保安防災連絡協議会が発足、番の州地区5社の消防相互応援協定を締結、消防力の強化を図る。
〃 4月5日	市公害防止条例が公布される。
〃 7月13日	坂出市危険物保安協会より広報車としてトヨタコロナバン（乗車人員5名、最大積載量500kg）が寄贈され、予防課に配置する。
〃 10月1日	専任署長制をしき、初代署長に消防司令、荒井信一氏を任命した。
〃 10月	市政30周年行事として、時代消防展を市民会館で開催、雲竜水、竜吐水、纏、消防服、火災報知器等を展示、とりわけ江戸時代の火事装束（川津町、山口氏所蔵）は好評をばくした。
昭和48年 1月23日	王越局専用電話、消防署に設置。
〃 3月2日	地元消防及び番の州企業等、県下の化学消防の粋をあつめての香川県防災会議主催による初の特種災害防災訓練が、番の州コンビナート地域において実施され、おおいにその成果をあげた。
〃 4月1日	消防職員5名増員、消防力の強化を図る。条例定数50名とする。
〃 7月25日	未曾有の大かんばつに見舞われ、水事情が悪化、市は緊急給水対策本部を設置。消防本部は特別火災警戒本部を設置して火災発生防止、警戒体制、火災時対策の強化を図り、万全を期した。
昭和48年 9月26日 (1973)	四国電力株式会社坂出發電所（番の州町2番地）の3号主変圧器（3組、60HZ、490,000KVA、21,500/187,000V）が過電流事故により出火、損害50,996千円
昭和48年 12月24日	白峰ライオンズクラブよりホース車（三菱ミニキャブW、最大積載量360kg、ホース30本）を寄贈され消防署に配置、ホース延長の革命を図った。

〃	12月25日	前消防団長山田兼松氏より、叙勲記念として消防指令車（日産キャブオーバー、乗車人員6名、最大積載量1,500kg）が寄贈され、現場指揮系統が一段と強化された。
昭和49年	4月1日	市の部制に伴い消防本部、消防署の機構を改革し、本部消防課の救急係を廃止し、庶務、警防、消防団の3係制とし、消防署に新しく警防、予防、救急、機関の4係を設けた。条例定数55名とする。
〃	6月1日	消防職員6名採用、消防力の強化を図る。
〃	9月11日	24m級梯子付消防ポンプ自動車（シャーシいすず、ホイールベース4.5m）を購入、消防署に配置する。
〃	12月6日	日本損害保険協会より、軽化学消防ポンプ自動車（シャーシトヨタFC100型、水量1,000立、薬液600立国検A-1合格薬液混合、サクシンプロポーショナー方式）火災保険号の寄贈を受け、消防署に配置、コンビナート火災に対する化学消防力が一段と強化される。
〃	12月18日	倉敷市三菱石油水島製油所重油屋外タンクの亀裂によるC重油海上流出にともない、市に事故対策本部を設け20日より防除作業に従事、資器材調達を担当して年末年始を返上、作業に従事した。
昭和50年	5月31日	消防署北車庫建築（129.04㎡）
〃	9月	日本消防協会より2B型救急車寄贈され、消防署に配置する。
〃	9月27日	消防団王越分団にニッサンBS-1型消防ポンプ自動車購入、配置する。
昭和51年	4月1日	綾歌郡宇多津町全域消防事務委託を受ける。消防団関係水防等は除く。
〃	4月1日	消防職員8名採用、消防力の強化を図る。条例定数63名とする。
〃	4月1日	坂出市防火協会発足、事務局を消防本部内に置く。
〃	5月16日	白峰ライオンズクラブより、三菱ミニ査察広報車寄贈される。
〃	5月25日	救急車（1号車）老朽により、トヨタ2B型に更新する。
〃	6月	与島局専用電話、消防署に配置される。
〃	9月16日	普通ポンプ自動車（保険号）老朽により、ニッサンBD-1型に更新する。
〃	11月3日	坂出市危険物安全協会より庁内放送設備寄贈される。
昭和52年	3月7日	番の州工業地帯の災害にそなえ、大型高所放水車、大型化学消防車、泡原液搬送車の三点セット及び普通ポンプ車BD-1型を購入、消防署に配置する。
〃	3月13日	宇多津町北浦住宅火災に、金山保幸消防士殉職、2階級特進（消防司令補）同月16日市民ホールで消防葬として葬儀を挙げる。
〃	3月20日	山火事頻発により特別災害警戒体制をしき、パトロール隊を編成する。
昭和52年	4月1日 (1977)	消防職員7名採用、総員65名となり、消防力の強化を図る。条例定数66名とする。
昭和52年	4月20日	消防団府中分団、普通ポンプ自動車ニッサンBS-1型購入配置する。
昭和52年	10月2日	消防団松山分団、香川県消防操法大会に出場、最優秀賞、消防庁長官から優勝旗が授与された。

昭和53年 4月1日	消防職員 1 名採用、総員66名となる。
〃 6月20日	消防署番の州分署庁舎鉄筋ブロック造り、延355. 34㎡完成業務開始、職員7名配置する。
〃 7月18日	昭和53年度香川県総合防災訓練、坂出市番の州県有地にて実施、関係機関40団体800名参加する。
〃 8月21日	坂出信用金庫創立50周年記念事業として、消防本部に査察広報車寄贈された。（トヨタコロナ1978年式88馬力、クーラー、放送設備一式付。）
〃 9月23日	香川県消防操法大会に府中分団出場し、優秀賞を受賞した。
〃 10月30日	市街地消防団西部分団にB S－1型消防ポンプ自動車購入、配置する。
昭和54年 3月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防本部庁舎建設用地1, 322. 32㎡を取得する。
〃 4月2日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、東部分遣所用地330. 89㎡を取得する。
〃 9月23日	香川県消防操法大会に王越分団出場し最優秀賞、消防庁長官から優勝旗が授与された。
〃 11月 1 日	小型動力ポンプ積載車2台購入、中央分団、府中分団に配置する。
昭和55年 6月7日	坂出市久米町 1 丁目に鉄筋コンクリート造り3階、1, 216. 099㎡の近代的な消防庁舎の建設に着手する。
〃 9月23日	香川県消防操法大会に西部分団出場し、優秀賞を受賞した。
〃 11月24日	小型動力ポンプ5台、積載車3台を購入し、王越分団、加茂分団、府中分団に配置する。
昭和56年 4月1日	消防本部（署）庁舎鉄筋コンクリート造り延1, 216㎡完成、業務開始。
〃 9月9日	小型動力ポンプ積載車5台購入、林田分団、川津分団、松山分団、王越分団、番の州分団に配置する。
〃 9月15日	消防団川津分団に普通ポンプ自動車トヨタB S－1型購入、配置する。
〃 9月23日	香川県消防操法大会に林田分団出場し、優秀賞を受賞した。
〃 9月30日	消防署消防倉庫鉄骨造り延155. 52㎡を完成する。
〃 12月20日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車11台購入し、西部分団、中央分団、府中分団2、川津分団、松山分団2番の州分団2、林田分団、加茂分団に配置する。
昭和57年 3月31日 (1982)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、B型消防救急指令装置及びサイレン吹鳴装置を設置し、業務を開始する。
	消防団林田分団に普通ポンプ自動車トヨタB S－1購入、配置する。
〃 4月1日	消防署東部分遣所鉄骨造り145㎡を完成、業務開始する。
〃 4月1日	消防職員3名採用する。
〃 9月23日	香川県消防操法大会に川津分団出場し、優秀賞を受賞した。
〃 9月29日	香川県共済農業協同組合連合会より2B型救急自動車の寄贈を受ける。
〃 11月19日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプB3級5台購入、西部分団2、林田分団、加茂分団、府中分団に配置する。

昭和58年 3月22日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、照明装置付救助工作車（シャーシー日野3m級）1台、サイレン吹鳴装置子局設備11局、防火衣60着を購入し、消防署に配置する。
昭和58年 3月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水そう40m ³ 級を児童公園と香風園の2ヶ所に設置する。
〃 9月23日	香川県消防操法大会に中央分団が小型ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞した。
〃 11月24日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車9台及びホース搬送車1台を購入、王越分団、林田分団、加茂分団、中央分団2、川津分団、西部分団2、番の州分団及び搬送車1台消防署に配置する。
〃 11月25日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプB3級8台を購入し府中分団、王越分団、番の州分団3、与島分団3に配置する。
昭和59年 3月7日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車CD-1型2台（いすゞTLD46WFY）、水そう付消防ポンプ自動車、水1.5屯（日野FD171AD）、粉末化学消防自動車ABC2,500kg（日野FH222BA）、高発泡消防自動車ハイフォーム6000（日野FF173BA）を購入し、消防署に配置する。
〃 9月2日	香川県消防操法大会に加茂分団が自動車ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞した。
〃 11月19日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車6台購入、中央分団、林田分団、川津分団2、番の州分団2に配置する。
昭和60年 2月25日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、普通消防ポンプ自動車、トヨタBS-1型購入、中央分団に配置する。
〃 4月1日	消防職員4名採用する。
〃 9月22日	香川県消防操法大会に府中分団が出場し最優秀賞（自動車ポンプの部）、消防庁長官から優勝旗が授与された。
〃 12月20日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防指令車（ニッサンセドリックバン）2,000cc更新する。
昭和61年 3月31日 (1986)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車1台購入、西部分団へ配置する。
〃 3月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、水そう付消防ポンプ自動車1台更新消防署に配置、BS-1型消防ポンプ自動車購入、加茂分団に配置する。
〃 9月14日	香川県消防操法大会に松山分団が小型ポンプの部で出場し、準優勝する。
〃 12月1日	香川県消防相互応援協定を締結する。
昭和62年 2月25日	訓練塔・車庫増築、鉄筋コンクリート造り5階建、延520.43m ² 完成竣工。
〃 3月16日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車CD-1型（いすゞNK R58E）購入し、番の州分署に配置する。

	〃	9月20日	香川県消防操法大会に番の州分団が出場し、最優秀賞(小型ポンプの部)香川県知事から優勝旗が授与された。
昭和63年		1月13日	倉敷市と瀬戸中央自動車道児島インターチェンジから坂出インターチェンジまでの間における消防相互応援に関する協定書を締結する。
	〃	3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、25m級屈折式大型高所放水車(いすゞP N J K 58 E 2 N)購入し、消防署に配置する。
	〃	3月29日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車C D-1型(いすゞP N J K 58 E 2 N)購入し、消防署に配置する。
	〃	4月1日	消防職員3名採用、条例定数74名とする。
	〃	4月8日	本州四国連絡橋道道路瀬戸中央自動車道における救急業務に関する支弁金にて、3B型ニッサンシビリアン救急車購入し、消防署に配置する。
	〃	5月1日	消防職員6名採用する。
	〃	9月18日	香川県消防操法大会に西部分団が小型ポンプ部で出場し、準優勝する。
平成元年		1月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、無線統制台1台(富士通ゼネラル製)購入し、無線通信の円滑化をはかる。
	〃	1月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防団車両(林田、府中、川津、松山、王越)無線機(富士通ゼネラル製)10W取付、本部と連携を密にする。消防署老朽5W無線機を10W(富士通ゼネラル製)に更新する。(4台)
	〃	2月27日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、大型化学消防ポンプ自動車更新し、消防署に配置する。
	〃	2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置親局増設する。(日本電気製子局60局対応)
	〃	2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置子局10局増設する。
	〃	9月17日	香川県消防操法大会に王越分団が自動車ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞した。
平成2年		2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助事業として、サイレン吹鳴装置子局1局増設する。
(1990)			
	〃	2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防車両(加茂、中央、西部)に車載用無線機(富士通ゼネラル製10W)取付、消防署に携帯無線(富士通ゼネラル製1W)10基購入する。
	〃	4月1日	消防署南部分署鉄筋コンクリート平屋建延199.85㎡完成、業務開始。
	〃	4月1日	消防職員3名採用、総員74名となる。
	〃	9月23日	香川県消防操法大会に林田分団が自動車ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞した。
	〃	10月28日	第1回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、松山分団が優勝した。
平成3年		3月8日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、普通消防ポンプ自動車(ニッサンB S-1型)購入し、王越分団に更新配置する。

平成3年	3月13日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置子局11局増設する。
	〃 3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、泡原液搬送車（いすゞU-CVR70K）、査察広報車2台（三菱R-C12V）更新及び指令車（トヨタU-HZJ77HZ）購入し消防署に配置、小型動力ポンプ積載車（スズキ）2台購入し、与島分団に配置する。
	〃 4月1日	消防職員1名採用、総員74名となる。
	〃 9月16日	香川県消防操法大会に与島分団が出場し、最優秀賞（小型ポンプの部）香川県知事から優勝旗が授与された。
	〃 10月27日	第2回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、松山分団が優勝した。
平成4年	3月9日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、20m級梯子自動車（いすゞU-CXM71P）更新し、消防署に配置する。
	〃 3月16日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、救急自動車（ニッサン3,000cc）更新し、消防署に配置する。
	〃 4月19日	高松自動車道の供用開始に伴い、県下6消防本部間で香川県消防相互応援協定に基づく高速自動車道に関する覚書及び日本道路公団高松建設局と高速自動車道における火災および救急業務等に関する覚書を締結する。
	〃 7月12日	第3回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、府中分団が優勝した。
	〃 9月20日	香川県消防操法大会に中央分団が自動車ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞した。
平成5年 (1993)	2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水そう40㎡級を東大浜公園と西大浜公園の2ヶ所に設置する。
	〃 3月10日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置子局6局増設する。
	〃 3月11日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急自動車（ベンツ310型）及び教育訓練用資器材を購入し、消防署に配置する。
	〃 3月12日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、救急普及啓発広報車（ニッサンシビリアン）を購入し、消防署に配置する。
	〃 8月1日	香川県消防操法大会に川津分団が小型ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞する。
	〃 9月5日～8日	第48回国民体育大会（夏季大会）が開催され、消防職団員が警備を実施。
	〃 10月24日～29日	第48回国民体育大会（秋季大会）が開催され、消防職団員が警備を実施。
平成6年	1月20日	香川県防災ヘリコプター派遣職員に関する協定書を県と締結し、職員1名を派遣する。

平成6年	3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、無線式個別呼出受令機70式購入する。
	〃 3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、緊急大型人員搬送車（三菱U－B E 437）、ホースカー（三菱S－L 069 P）購入し、消防署に配置及び携帯無線電話装置12基（ゼネラルC P－5461 T型5W）、サイレン吹鳴装置子局2局増設する。
	〃 3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水そう40m ³ 級を鎌田池公園と西大浜第4公園の2ヶ所に配置する。
平成6年	3月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車（ニッサンB S－1型）購入し、府中分団に更新配置する。
	〃 3月30日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車（三菱C D－1型）更新及び小型動力ポンプ付水槽車（ポンプ控除いすずU－V R 70K）購入し、消防署に配置する。
	〃 4月1日	消防職員2名採用、総員74名となる。
	〃 4月1日	香川県防災行政無線システム運用開始する。
	〃 4月1日	香川県防災ヘリコプター運行開始に伴い、県下50団体間で、香川県防災ヘリコプター応援協定を締結する。
	〃 5月15日	第4回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、加茂分団が優勝した。
	〃 6月1日	身体障害者用緊急ファクシミリの運用を開始する。
	〃 7月20日	未曾有の大かんばつに見舞われ、水事情が悪化し、市は渇水対策本部を設置、消防本部は消防特別警戒本部を設置して火災発生の防止、警戒体制、火災時対策の強化を図り万全を期した。
	〃 11月14日	
	〃 9月18日	香川県消防操法大会に加茂分団が自動車ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞した。
平成7年 (1995)	1月5日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水そう40m ³ 級を東大浜第3公園に設置する。
	〃 1月17日	1月17日午前5時46分兵庫県を中心に兵庫県南部地震が発生し、震災消防応援派遣隊として本市消防本部は消防職員延24名、延61日に渡り消防ポンプ自動車1台、水槽車、緊急大型人員搬送車1台を災害現場に派遣し、災害救助活動に協力応援を実施した。
	〃 2月28日	
	〃 3月9日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車（三菱C D－1型）購入し、南部分署に配置する。
	〃 3月13日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ（トーハツ）並びに小型動力ポンプ積載車2台購入し与島分団に配置、防火水槽40m ³ 級を西大浜第1公園に設置する。
	〃 3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急自動車（メルセデスベンツ310型）購入し、南部分署に配置する。

平成7年	3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置子局2基を府中分団に増設、中継局1局を消防署及び東部分遣所に増設する。
	〃 9月1日	第1回香川県震災対策総合訓練が坂出市番の州県有地にて実施、関係機関31団体661名が参加する。
	〃 9月17日	香川県消防操法大会に西部分団が小型ポンプの部で出場し、優秀賞を受賞した。
	〃 11月28日 〃 11月29日	第1回緊急消防援助隊合同訓練が天皇陛下行幸のもとで東京都江東区東京ガス豊州工場跡地にて実施、高規格救急自動車1台、隊員3名を派遣し、合同訓練に参加する。
平成8年	1月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、電動式ホース吊場を番の州分署にて更新配置する。
	〃 2月7日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水槽40m ³ 級を東大浜第1公園に設置する。
	〃 2月29日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水槽40m ³ 級を八幡団地に設置する。
	3月12日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、車載用無線電話装置4基を購入し更新配置し、可搬型無線電話装置1基（富士通CM-5538T型10W）を購入し消防署に配置、及び安全装備品（防火服一式）80着を購入し、本部・署・所に更新配備する。
	〃 3月13日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ（トーハツ）2台を購入し、川津分団・松山分団に更新配置する。
	〃 3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車5台を購入し、中央・加茂・府中2台・王越分団にそれぞれ更新配置する。
	〃 5月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、水槽付消防ポンプ自動車1台、背負式高圧消火器具2基を購入し、消防署に配置及び消防ポンプ自動車（BS-1型）1台を購入し、西部分団に更新配置、防火水槽40m ³ 級を林田町港に設置する。
	〃 3月25日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、多目的全身防護服4着を購入し、消防署に配備する。
	〃 4月1日	香川県防災ヘリコプター派遣職員に関する協定書を県と締結し、職員1名を派遣する。
	〃 5月19日	第5回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、加茂分団が優勝した。
	〃 9月16日	香川県消防操法大会に王越分団が小型ポンプの部に出場し準優勝を受賞した。

〃	11月6日	緊急消防援助隊四国ブロック合同訓練が徳島県徳島市川内町四国大学グランドにて実施、高規格救急自動車1台、隊員3名を派遣し合同訓練に参加する。
	〃 11月7日	
平成9年 (1997)	1月10日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水槽40m ³ 級を坂出市産業展示館に設置する。
〃	3月6日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ（トーハツ）6台を購入し、中央分団・林田分団・加茂分団・川津分団・松山分団・番の州分団にそれぞれ更新配置する。
〃	3月11日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車（三菱CD-1型）を購入し、東部分遣所に更新配置する。
〃	3月12日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車5台を購入し、林田分団・川津分団・松山分団・王越分団・番の州分団にそれぞれ更新配置する。
平成9年	3月13日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、三点セット積載用75mmホース(20m30本、10m10本)を購入し、番の州分署に更新配置する。
〃	3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急自動車（いすゞスーパーメディック4WD）を購入し、消防署に更新配置並びに総合病院坂出市立病院に心電図受信装置を配置する。
〃	3月19日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火水槽40m ³ 級を下川津緑地公園に設置する。
〃	6月 1 日	第6回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、加茂分団が優勝した。
〃	9月14日	香川県消防操法大会に番の州分団が小型ポンプの部に出場し優勝を受賞した。
平成10年 (1998)	1月14日	15時30分頃、林田町字番屋前4285番地の174号地先林田A号岸壁にて重量物運搬船プロジェクト・ヨーロッパ号より出火、負傷者1名、損害約226,000千円であった。
〃	1月16日	緊急消防援助隊中・四国ブロック合同訓練が岡山県岡山市西長瀬表町岡山西部公園（JR操車場跡地）にて実施、高規格救急自動車1台、隊員3名を派遣し合同訓練に参加する。
〃	3月27日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、心電図受信装置2台を購入し、市内の総合病院回生病院・聖マルチン病院に配置する。
〃	3月6日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ（トーハツ）5台を購入し、中央分団・府中分団2台・川津分団・王越分団にそれぞれ更新配置する。
〃	3月6日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防用無線電話装置16基を購入し、署・所に更新配置及び無線式個別呼出受令機25基を購入し、本部・消防団に更新配置する。

〃	3月10日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車5台を購入し、西部分団・中央分団・林田分団・加茂分団・川津分団にそれぞれ更新配置する。
平成10年	3月12日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、南部分署に更新配置及び消防ポンプ自動車（CDー1型）を購入し、消防署に更新配置する。
〃	4月1日	消防職員1名採用。
〃	5月10日	第7回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し府中分団が優勝した。
〃	9月13日	香川県消防操法大会に府中分団が自動車ポンプの部に出場し優勝を受賞した。
〃	11月1日	自動車電話、携帯電話等からの119番転送システム運用開始する。
〃	11月5日	緊急消防援助隊中・四国ブロック合同訓練が高松市神在川窪町、香川県農業共済組合連合会グラウンド及びその周辺にて実施、水槽車1台、高規格救急自動車1台、隊員6名を派遣し合同訓練に参加する。
〃	6日	
平成11年	3月16日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防緊急通信指令施設整備を平成10年より3ヵ年計画で実施、10年度分（指令装置・基地局無線電話装置・拡張台・電話交換装置・自動出動指令装置・気象観測装置・カメラ付電話装置）市町村波周波数変更を完了。通信室を移設業務開始及び防災対策調査広報車1台を購入し、坂出市総務部総務課に配置する。
〃	4月1日	消防職員3名採用。
〃	9月12日	香川県消防操法大会に松山分団が小型ポンプの部に出場し準優勝を受賞した。
〃	11月17日	緊急消防援助隊第2回四国ブロック合同訓練が愛媛県松山市上野町、愛媛県総合運動公園にて実施、人員搬送車1台隊員2名を派遣し合同訓練に参加する。
〃	18日	
〃	11月21日	第8回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し府中分団が優勝した。
平成12年	3月16日 (2000)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防緊急通信指令施設整備を平成10年より3ヵ年計画で実施、11年度分（表示盤、無線統制台、地図等検索装置、災害状況等自動案内装置、音声合成装置、消防無線電話装置（団波）、サイレン吹鳴装置（一式）子局（5局））を完了。
〃	4月1日	消防職員2名採用。
〃	5月21日	第9回坂出市消防団総合訓練大会を西大浜南2丁目サッカー場にて開催し、番の州分団が優勝した。
〃	9月10日	香川県消防操法大会に林田分団が自動車ポンプの部に出場し優秀賞を受賞した。
〃	10月6日	午後1時30分頃鳥取県を中心に鳥取県西部地震（M7.1）が発生した。

平成13年 3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防緊急通信指令施設整備を平成10年より3ヵ年計画で実施、12年度分（指令電送装置、監視カメラ装置、車両動態表示装置、自家発電装置、サイレン吹鳴装置子局（15局））を完了。
平成13年 4月1日	消防職員3名採用。
〃 5月20日	第1回消防実技訓練大会を林田町「綾川右岸河川敷」にて実施した。
〃 9月9日	香川県消防操法大会に加茂分団が小型ポンプの部に出場し優秀賞を受賞した。
〃 10月23日 〃 24日	緊急消防援助隊中・四国ブロック合同訓練が高知市仁井田高知新港敷地内にて実施、高規格救急車1台、人員搬送車1台、隊員4名を派遣し、合同訓練に参加する。
平成14年 2月25日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、耐震性防火水槽（飲料水兼用100m ³ 型）1基を坂出駅北口市民広場に設置する。
〃 3月12日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ10台購入、中央分団2台・林田分団1台・加茂分団1台・番の州分団2台・西部分団1台・松山分団1台・川津分団1台更新配置する。
平成14年 3月13日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、川津分団本部屯所を設置する。
〃 3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車7台購入、府中分団2台・松山分団2台・番の州分団2台更新配置および川津分団1台を配置する。また、サイレン吹鳴装置（子局）1基川津分団に更新配置する。
〃 4月1日	消防職員2名採用。
〃 5月19日	第2回消防実技訓練大会を林田町「綾川右岸河川敷」にて実施した。
〃 9月15日	香川県消防操法大会に中央分団が小型ポンプの部に出場し優秀賞を受賞した。
〃 10月16日～17日	緊急消防援助隊中・四国ブロック合同訓練が山口県きらら浜にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
平成15年 3月13日 (2003)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、林田分団本部屯所待機所を設置する。
〃 3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、救助工作車1台を購入し、消防署に更新配置する。
〃 4月1日	消防職員4名採用。
〃 9月14日	香川県消防操法大会に川津分団が出場し、最優秀賞（小型ポンプの部）に輝き香川県知事から優勝旗が授与された。
平成15年 10月16日～17日	緊急消防援助隊中・四国ブロック合同訓練が広島県呉市にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
平成16年 3月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急車1台、化学消防自動車1台を購入し消防署に配置する。又、消防ポンプ自動車1台を松山分団に配置する。

〃	4月1日	消防職員2名採用。
〃	8月30日	台風16号
〃	9月29日	台風21号
〃	10月20日	台風23号
		本市に大きな爪あとを残す。総被害額約16億円。
平成16年	9月12日	香川県消防操法大会に府中分団が小型ポンプの部に出場し準優勝を受賞した。
〃	11月8日	第19回全国消防操法大会に府中分団が小型ポンプの部に出場し竿頭綬を授与した。
平成17年	3月4日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急車1台を購入し、消防署に配置する。
〃	3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置13基を西部分団2基、中央分団1基、加茂分団2基、川津分団2基、王越分団1基、番の州分団1基、与島分団4基を更新配置する。
〃	3月23日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、松山分団本部屯所を設置する。
〃	3月25日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車1台購入、川津分団に更新配置する。
〃	3月29日	消防力整備事業として小型動力ポンプ積載車2台購入、番の州分団1台、与島分団1台更新配置する。
〃	4月1日	消防職員4名採用。
〃	6月9日	救助用ボート13隻購入、各署所に配置する。
〃	9月18日	香川県消防操法大会に西部分団が小型ポンプの部に出場し優秀賞を受賞した。
〃	10月19日～20日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が高松生島町、香川県消防学校庁舎及び周辺の用地にて実施、ポンプ車1台、人員搬送車1台、救急車1台、隊員10名派遣し、合同訓練に参加する。
平成18年 (2006)	3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、資機材搬送車1台を購入し、消防署に配置する。又発信地表示システム等を導入し、消防緊急通信指令システムの充実を図る。
〃	3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ7台を購入し、西部分団2台、林田分団1台、加茂分団1台、川津分団1台、府中分団1台、消防署1台更新配置する。又サイレン吹鳴装置11基を西部分団2基、中央分団3基、林田分団2基、府中分団1基、川津分団1基、番の州分団2基更新配置する。
平成18年	4月1日	消防職員1名採用。
平成18年	9月19日	香川県消防操法大会に王越分団が小型ポンプの部に出場し、最優秀賞に輝き香川県知事から優勝旗が授与された。

- 〃 10月18日～19日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が岡山県玉島町にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
- 平成19年 3月13日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ10台を購入し、府中分団1台、王越分団1台、番の州分団3台、与島分団3台、西部分団1台、消防署1台更新配置する。
- 平成19年 3月14日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車1台を購入し、林田分団に更新配置する。
- 〃 3月15日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車11台購入し、西部分団2台、中央分団2台、林田分団1台、加茂分団1台、川津分団3台、番の州分団2台更新配置する。
- 〃 3月15日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、サイレン吹鳴装置7基を中央分団1基、林田分団2基、府中分団2基、東部分遣所1基、南部分署1基更新配置する。
- 平成19年 4月1日 消防職員1名採用。
- 平成19年 9月16日 (2007) 香川県消防操法大会に番の州分団が小型ポンプの部に出場し、最優秀賞に輝き香川県知事から優勝旗が授与された。
- 平成19年 11月28日～29日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が鳥取県米子市にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
- 平成20年 3月10日 (2008) 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、22m級屈折式大型高所放水車（日野BDG-FH1ALXA改）購入し、消防署に配置する。
- 平成20年 4月1日 消防職員1名採用。
- 〃 9月14日 香川県消防操法大会に松山分団が小型ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞した。
- 〃 10月30日～31日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が愛媛県松山市にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
- 平成21年 2月16日 (2009) 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、大型化学消防車を購入し、消防署に更新配置する。
- 〃 3月10日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、安全装備品（防火服、耐熱防火服他）を購入し、更新配備する。
- 平成21年 4月1日 消防職員3名採用。
- 〃 5月13日 番の州分署設置の旧ホース吊り場を撤去する。
- 〃 9月13日 香川県消防操法大会に林田分団が小型ポンプの部に出場し、最優秀賞に輝き香川県知事から優勝旗が授与された。
- 〃 10月13日 番の州分署庁舎の耐震補強工事が完了する。
- 〃 10月15日～16日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が島根県出雲市にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。

平成22年 3月15日 (2010)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急車1台、消防ポンプ自動車1台を購入、消防署に更新配置する。 同事業として、消防ポンプ自動車1台を加茂分団、小型動力ポンプ積載車7台を西部分団1台、中央分団1台、林田分団1台、松山分団1台、王越分団1台、与島分団2台、更新配置する。
〃 3月19日	消防本部庁舎の耐震改修工事が完了する。
平成22年 4月1日	消防職員2名採用。
〃 〃	香川県消防学校へ職員1名を派遣する。
平成22年 6月4日	～ 5日 第4回緊急消防援助隊全国合同訓練が愛知県知多市にて実施、高規格救急車1台、隊員3名を派遣し、合同訓練に参加する。
〃 9月12日	香川県消防操法大会に与島分団が小型ポンプの部に出場し、準優勝を受賞した。
〃 10月21日	～ 22日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が高知県高知市にて実施、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
〃 12月24日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、中央分団本部屯所新築完成。
平成23年 3月10日 (2011)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、中央分団本部屯所にサイレン吹鳴装置を設置。
〃 3月11日	14時46分 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生。
〃	坂出市津波対策本部設置。
〃 3月14日	～ 21日 東北地方太平洋沖地震被災地支援活動のため緊急消防援助隊香川県隊として、宮城県気仙沼市へ緊急大型人員搬送車1台、隊員2名出動する。
〃 3月18日	～ 21日 緊急消防援助隊香川県隊（第1次派遣隊）帰隊に伴う、支援隊として、隊員2名出動する。
平成23年 4月1日	消防職員3名採用。
〃 9月11日	香川県消防操法大会に加茂分団が自動車ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞した。
〃 10月20日	～ 21日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が広島県福山市にて実施、救急車1台、隊員3名、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
平成24年 3月15日 (2012)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防緊急通信指令施設指令台を更新配置する。 同事業として、消防ポンプ車1台、小型消防ポンプ1台を中央分団に更新配置する。
平成24年 4月1日	消防職員3名採用。
〃 9月9日	香川県消防操法大会に中央分団が小型ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞した。
〃 11月1日	～ 2日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が山口県山口市にて実施、救急車1台、隊員3名、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。

〃	11月30日	消防救急デジタル無線施設整備に伴う、通信機器室の改修工事を完了する。
平成25年	3月7日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、30メートル級梯子付
(2013)		消防自動車を更新配置する。
〃	3月15日	緊急消防援助隊活動体制の充実強化に伴い、総務省消防庁から人員輸送車
		定員21名の無償貸与を受け、消防署に配置する。
〃	3月26日	消防防災通信基盤整備事業として、消防救急デジタル無線施設共通波施設
		の整備を完了する。
平成25年	4月1日	消防職員2名採用。
〃	〃	香川県防災航空隊へ職員1名を派遣する。
〃	5月1日	坂出市消防団に女性消防団員21名が入団する。
〃	9月8日	香川県消防操法大会に川津分団が小型ポンプの部に出場し、準優勝を受賞
		した。
平成25年	10月1日	消防本部庶務課に、女性消防職員（1名）を配属する。
〃	10月1日	坂出市消防団協力事業所表示制度を施行する。
〃	10月4日	女性消防団員の入団に伴い、消防広報車を消防団本部に配置する。
〃	10月16日	女性消防団員21名「チーム コスモス」発足。
平成25年	11月2日 ～ 3日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が徳島県海部郡にて実施、
		救急車1台、隊員3名、人員輸送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練
		に参加する。
平成26年	2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、火災原因調査車2台を
(2014)		更新配置する。
〃	3月11日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急車1台を更
		新配置する。
〃	3月14日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型消防ポンプ1台を
		川津分団に更新配置する。
平成26年	4月1日	消防職員4名採用。
〃	9月14日	香川県消防操法大会に西部分団が小型ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞
		した。
〃	11月1日 ～ 2日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が岡山県岡山市にて実施、
		高規格救急車1台、隊員3名、人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、
		合同訓練に参加する。
平成27年	1月31日	総務省消防庁から救助資機材搭載型消防ポンプ自動車の無償貸付を受け、
(2015)		王越分団に更新配置する。
平成27年	4月1日	消防本部に消防次長を設ける。
		消防職員5名採用。
〃	9月13日	香川県消防操法大会に王越分団が小型ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞
		した。

- 〃 10月31日 ～ 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が香川県高松市、本市
11月1日 小豆島にて実施され、消防ポンプ自動車1台、高規格救急車1台
大型化学車1台、泡原液搬送車1台、大型高所放水車1台、人員
搬送車1台、訓練参加者・支援者として隊員53名が参加する。
なお、本市は図上訓練（指揮支援本部）・部隊参集訓練（川崎重工
業㈱坂出造船工場）・初動訓練（コスモ石油㈱坂出物流基地）の会
場となる。
- 平成27年 11月12日 ～ 15日 第5回緊急消防援助隊全国合同訓練が千葉県成田市にて実施され、
人員搬送車1台、隊員2名を派遣し、合同訓練に参加する。
- 平成28年 1月1日 消防団応援制度が開始となる。
(2016)
- 〃 3月18日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として消防救急デジタル無線
施設の整備を完了する。
- 平成28年 4月1日 消防職員2名採用。
- 〃 〃 香川県消防学校へ職員1名を派遣する。
- 〃 4月1日 坂出市消防団 女性分団結成。女性消防団員28名。
- 平成28年 4月14日 21時26分 熊本県熊本地方を震源とする地震が発生。最大震度7 熊本県益城町
- 〃 4月16日 1時25分 熊本県熊本地方で震度7の地震が発生。（平成28年熊本地震）
- 平成28年 4月16日 ～ 19日 平成28年熊本地震被災地支援活動のため緊急消防援助隊香川県隊（統合
機動部隊）として、熊本県益城町へ救急車1台、隊員3名出動する。
- 〃 4月18日 ～ 19日 緊急消防援助隊香川県隊・統合機動部隊の帰隊および第二次隊派遣に伴う
支援隊として人員搬送車1台、隊員2名出動する。
- 〃 4月18日 ～ 21日 緊急消防援助隊・第二次隊として隊員3名出動する。
- 〃 7月29日 東部分遣所望楼撤去および防水工事が完了する。
- 〃 9月18日 香川県消防操法大会に番の州分団が小型ポンプの部に出場し、優秀賞を受賞
した。
- 〃 10月21日 14時7分 鳥取県中部を震源とする地震が発生。最大震度6弱（鳥取県中部地震）
- 〃 10月29日 ～ 30日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が鳥取県中部地震の発生に
伴い中止になる。
- 〃 11月8日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、空気充填機を更新整備
する。
- 平成29年 2月28日 西部分団本部屯所を寿町三丁目から入船町一丁目へ移転し新築完成。
(2017) 3月1日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプを7基を
購入し、松山分団2基、中央分団1基、加茂分団1基、川津分団1基、与島
分団1基、番の州分団1基更新配置する。
- 〃 3月6日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車1台を
府中分団に更新配置する。
- 〃 3月9日 香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、泡原液搬送車1台、ホー
ス延長車1台、指揮統制車1台を更新配置する。

平成29年 4月1日	消防職員3名採用。
〃 9月10日	香川県消防操法大会に府中分団がポンプ自動車の部に出場し、優秀賞を受賞した。
〃 9月30日	秋田県秋田市で開催された第23回全国女性消防操法大会に女性分団が出場し、敢闘賞を受賞した。
〃 10月20日～21日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が島根県松江市・安来市にて実施され、救急車1台、隊員3名を派遣し、合同訓練に参加する。
平成30年 2月15日 (2018)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車7台を購入し、川津分団2台、府中分団2台、中央分団1台、加茂分団1台、林田分団1台更新配置する。
〃 2月16日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ5基を購入し、川津分団2基、府中分団1基、中央分団1基、林田分団1基更新配置する。
平成30年 3月22日 (2018)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急車1台を消防署に更新配備する。
〃 3月23日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車1台を消防署に更新配置する。
〃 3月30日	高規格救急車1台を、台湾内政部消防署訓練センターへ寄贈する。
平成30年 4月1日 (2018)	消防職員3名採用。
7月8日～10日	平成30年7月豪雨被災地支援活動のため緊急消防援助隊香川県隊（統合機動部隊）として、愛媛県宇和島市へ救急車1台、隊員3名出動する。
〃 7月12日～16日	緊急消防援助隊・第一次派遣隊として広島県安芸郡へ救急車1台、隊員3名出動する。
〃 7月16日	緊急消防援助隊香川県隊・第一次派遣隊の帰隊および第二次派遣隊派遣に伴う支援隊として人員搬送車1台、隊員2名出動する。
〃 7月16日～19日	緊急消防援助隊・第二次派遣隊として隊員3名出動する。
〃 7月19日	緊急消防援助隊香川県隊・第二次派遣隊の帰隊および第三次派遣隊派遣に伴う支援隊として人員搬送車1台、隊員2名出動する。
〃 7月19日～22日	緊急消防援助隊・第三次派遣隊として隊員3名出動する。
〃 7月22日	緊急消防援助隊香川県隊・第三次派遣隊の帰隊および第四次派遣隊派遣に伴う支援隊として人員搬送車1台、隊員2名出動する。
〃 7月22日～25日	緊急消防援助隊・第四次派遣隊として隊員3名出動する。
平成31年 2月26日 (2019)	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車3台を購入し、王越分団、番の州分団、中央分団に更新配置、小型動力ポンプ1基を府中分団に更新配置する。
〃 2月27日	防災対策事業債を活用して、消防ポンプ自動車を購入し、西部分団に更新配置する。

〃	3月7日	緊急防災・減災事業債を活用して、消防ポンプ自動車1台を更新配置する。
〃	3月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車1台、水槽車1台更新配置する。
平成31年 (2019)	4月1日	消防職員4名採用。
令和元年 (2019)	9月30日	南部分署屋上防水改修工事が完了する。
令和元年 (2019)	11月30日 ～ 12月1日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が高知県土佐市・須崎市にて実施され、救急車1台、隊員3名を派遣し、合同訓練に参加する。
令和2年 (2020)	2月27日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車を3台購入し、西部分団、加茂分団、林田分団に更新配置、小型動力ポンプ1基を王越分団に更新配置する。
〃	3月6日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、水槽付き消防ポンプ自動車1台を更新配置する。
〃		
令和2年 (2020)	4月1日	消防職員3名採用、総員77名となる。条例定数80名とする。
〃	4月1日	消防署の組織を改革し、消防署に新しく救助係を設ける。
〃	7月1日	多言語コールセンターサービスシステムの運用を開始する。
〃	10月1日	Net119緊急通報システムの運用を開始する。
〃	12月17日	防災対策事業債を活用して、小型動力ポンプを3基購入し、林田分団、加茂分団、番の州分団に更新配置する。
〃	12月25日	消防緊急通信指令施設指令台の部分改修（情報系）が完了する。
令和3年 (2021)	2月26日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、新モデルの防火衣を10着購入する。
〃	3月5日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、水槽付き消防ポンプ自動車1台を更新配置する。
令和3年 (2021)	4月1日	消防職員1名採用、総員78名となる。
〃	8月31日	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、消防本部、番の州分署、南部分署、東部分署所便所改修工事が完了する。
〃	11月7日	中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が広島県三次市にて実施され、救急車1台、隊員3名を派遣し、合同訓練に参加する。
令和4年 (2022)	2月7日	防災対策事業債を活用して、小型動力ポンプを2基購入し、松山分団、川津分団に更新配置する。
〃	2月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車を2台購入し、松山分団、加茂分団に更新配置する。

	〃	2月16日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火衣を10着購入する。
	〃	2月21日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急自動車1台を更新配置する。
	〃	2月28日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、消防ポンプ自動車1台を更新配置する。
	〃	3月31日	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、消防本部執務環境改善工事が完了する。
令和4年 (2022)		4月1日	消防本部および消防署の組織を改革。通信指令係を廃止し、消防本部に新しく情報指令課を設ける。
	〃	4月1日	消防職員2名採用（内1名女性）、総員80名となる。
	〃	12月18日	市政80周年および消防団結成75周年の記念事業として、団旗・分団旗を更新する。
令和5年 (2023)		2月15日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車を2台購入し、府中分団、番の州分団に更新配置する。
	〃	2月17日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火衣を10着購入する。
	〃	2月27日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業を活用して、小型動力ポンプを2基購入し、西部分団、中央分団に更新配置する。
令和5年 (2023)		4月1日	女性用仮眠室棟プレハブ鉄骨造平屋建延29.98㎡完成竣工、業務開始。
		4月1日	女性用仮眠室棟建築に伴い自転車置場移転、使用開始。
	〃	12月12日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業を活用して、小型動力ポンプを3基購入し、番の州分団、中央分団、林田分団に更新配置する。
令和6年 (2024)		1月25日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車を3台購入し、番の州分団、府中分団、松山分団に更新配置する。
	〃	1月31日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火衣を10着購入する。
	〃	3月29日	与島分団第3部屯所、旧櫃石小学校敷地内に移転。 鉄骨造平屋建延27㎡完成竣工、使用開始。
令和6年 (2024)		4月1日	消防職員6名採用（内1名女性）、総員80名となる。
		8月1日	こども消防車修理のため、クラウドファンディング開始。
	〃	10月12日	消防本部受付、省エネルギー化工事完了、使用開始。
	〃	10月29日	こども消防車修理のクラウドファンディング目標金額達成する。
	〃	11月19日	官公庁オークションを利用し、小型動力ポンプ積載車2台、小型ポンプ2基売却する。
令和7年 (2025)		3月3日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、高規格救急自動車1台を更新配置する。
令和7年 (2025)		4月1日	消防職員4名採用（内1名女性）、総員80名となる。
		5月2日	こども消防車修理完了

〃	7月9日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、防火衣を10着購入する。 消防本部および消防署、番の州分署、南部分署、東部分遣所の照明設備をLED化し、使用開始。
	12月1日	
令和8年	2月10日	南部分署ホースリフター修繕工事完了、使用開始。
(2026)	2月20日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、小型動力ポンプ積載車を1台購入し、番の州分団に更新配置する。
〃	3月30日	香川県石油貯蔵施設立地対策等補助金事業として、救助工作車1台を更新配置する。
令和8年	4月1日	消防職員2名採用（内1名女性）、総員82名となる。

2 消防本部管内図



3 位置及び地勢

坂出市は香川県中央北部に位置し、瀬戸内海国立公園の中心地である塩飽諸島を北方海上に擁し、東は五色台を主軸とした観光開発がとみに進められている。五色台を背に悲哀の天皇崇徳上皇白峰陵を仰ぎ、麓には、鎌倉時代（1219年）再建された国宝神谷神社が鎮座する。また、南方城山の朝鮮式城跡には数々の文化財を遺す史跡が保たれ、近年、各地から多くの来訪者が訪れにぎわっている。

市の西方聖通寺山には、古くから常盤公園として緑化され、これよりの眺めは実に多島海美の極みと申すか、人の目をみはらせ、世人の注目するところとなっている。

市の中央部を流れる綾川の沿岸は、肥沃で農作物に適し、地元ブランドとしての、坂出三金時（金時いも、金時にんじん、金時みかん）が盛んに生産され、下流デルタ地帯は、奈良時代に遡るが、いにしへの遺跡が整然と区画され、その中央に国司庁跡が残っている。

平成25年2月6日、坂出市府中町で奈良時代から平安時代の瓦ぶきの建物や堀の跡が確認され、その区画や建物の構造からその周辺を菅原道真公が国司を務めた讃岐国府跡と断定された。国府場所の特定は、四国では初めてであり全国では17例目となっている。

このような地勢と歴史を持つ坂出市にも、時の流れと人の努力によって、市の中央北部の港湾は改修され、四国一を誇る国の重要港湾としての位置が高まり、これより伸びる塩田跡には近代工場が群立し、飛躍的な発展が続けられている。又、昭和39年より190万坪（6,278,000㎡）の番の州埋立工事が着手され、続々と海面に工業地帯が誕生し、南部には川崎重工業株式会社坂出工場がその偉容を出現、35万、50万、60万トンドックが完成された。

更に同工業地帯には三菱ケミカル株式会社香川事業所、四国電力株式会社火力本部坂出発電所、コスモ石油株式会社坂出物流基地、ライオンケミカル株式会社オレオケミカル事業所等順次建設操業されている。昭和42年10月には、最大貯水量850万トンの府中ダムが完成。

これら工場の工業用水として送水されるに至り、番の州工業地帯は瀬戸内経済圏の拠点として、又、昭和63年4月、世紀の大事業である瀬戸大橋の架橋工事が完成し、本州と陸続きとなり、四国の玄関口として期待されている。

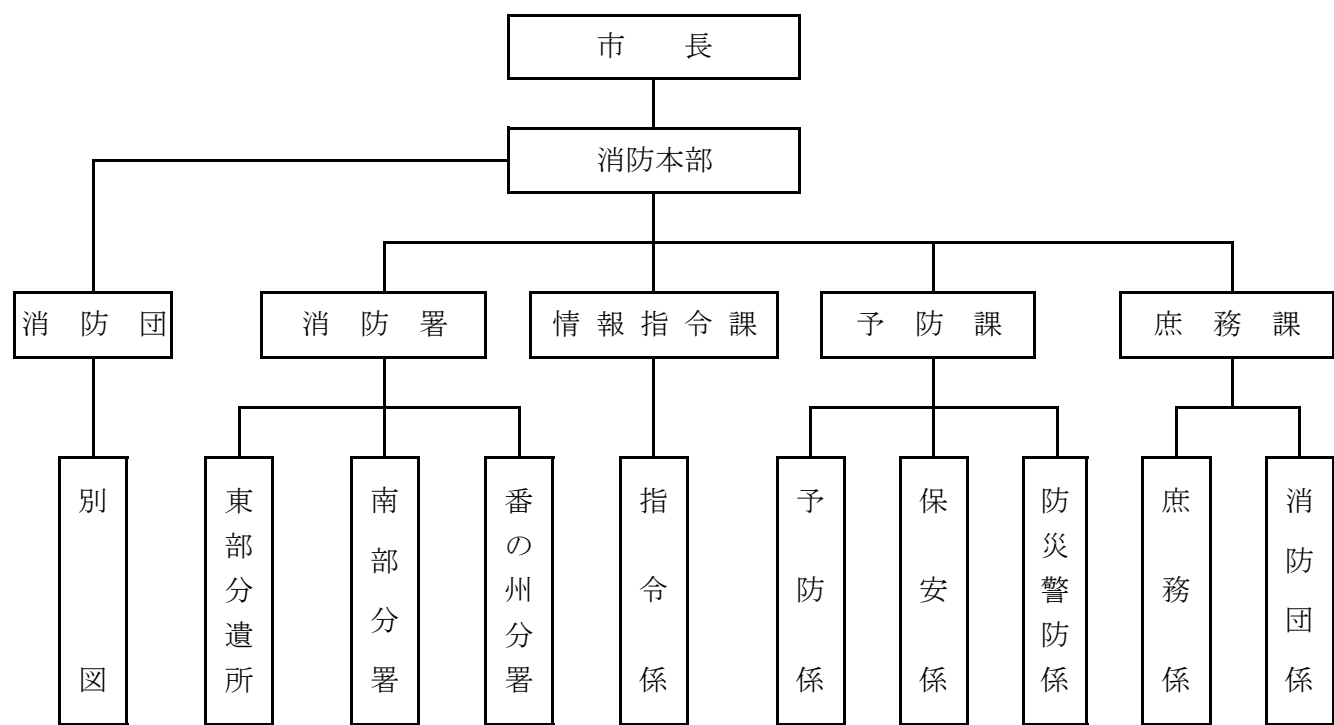
坂出市（常住人口・令和8年1月1日現在）

		東経133度51分38秒		北緯34度18分59秒	
面 積	92.46km ²	東	西	14.65km	
		南	北	18.20km	
世 帯 数	24,651世帯	人 口 総 数		48,902人	

宇多津町（常住人口・令和8年4月1日現在）

面 積	8.1km ²	東	西	4.2km	
		南	北	5.8km	
世 帯 数	9,331世帯	人 口 総 数		18,413人	

4 消防本部の機構



5 消防庁舎

名 称	坂出消防本部 消防署、消防団	坂出消防署 番の州分署	坂出市消防署 南部分署	坂出市消防署 東部分遣所
所 在 地	坂出市久米町 一丁目17番23号	坂出市番の州公園 3番地	坂出市花町 6番11号	坂出市林田町 152番地1
敷 地 面 積	1868.37 平方メートル	712（県有地） 平方メートル	375.5 平方メートル	330.89 平方メートル
建 築 延 面 積	1905.770 平方メートル	355.34 平方メートル	198.349 平方メートル	145 平方メートル
建 築 構 造	鉄筋コンクリート造 一部5階建	鉄筋ブロック 一部2階建	鉄筋コンクリート造 平屋建	軽量鉄骨 平屋建
竣工年月日	昭和56年2月25日 昭和62年2月増築 令和5年3月増築	昭和53年5月31日	平成2年3月15日	昭和57年2月27日

6 一般会計と消防予算の過去3ヶ年の比較

単位：千円

区 分 年度別	一般会計予算	消 防 予 算 額	比 率 %	前年度消防予算との増加	
				増 減 額	比 率
令 和 5 年 度	24,153,000	983,636	4.1	138,157	16.3
令 和 6 年 度	25,541,000	895,743	3.5	△ 87,893	△ 8.9
令 和 7 年 度	26,520,000	1,084,087	4.1	188,344	21.0

7 消防予算と決算

単位：千円

区 分 年度別	予 算 額	決 算 額	執 行 率 %	消防費にかかる 基準財政需要額
令 和 5 年 度	983,636	971,130	98.8%	775,738
令 和 6 年 度	895,743	892,378	99.6%	787,921
令 和 7 年 度	1,079,611	1,066,202	98.8%	813,215

8 消防職員及び消防車に対する比率

区 分	人 口	世 帯 数	面 積
消防職員1人当たり	821人	414世帯	1.23km ²
救急車1台当たり	16,829人	8,496世帯	25.14km ²

9 人口、世帯数に対する消防費、損害額の比率

単位：円

区 分	消 防 費	火 災 損 害 額
市 民 1 人 当 り	16,105	989
1 世 帯 当 た り	31,902	1,959

10 歴代消防長

歴代	氏 名	期 間	歴代	氏 名	期 間
1	須 崎 宇三郎	S 24. 9. 1 S 28. 3. 31	21	細 谷 義 信	S 60. 10. 1 S 63. 3. 31
2	浜 田 専 一	S 28. 4. 1 S 28. 7. 25	22	鶴 岡 知 義	S 63. 4. 1 S 63. 9. 30
3	鎌 田 春 吉	S 28. 7. 26 S 32. 11. 30	23	三 木 昭	S 63. 10. 1 H 3. 3. 31
4	久 米 義 夫	S 35. 12. 1 S 35. 4. 2	24	池 田 陸 雄	H 3. 4. 1 H 5. 3. 31
5	藪 下 勉	S 35. 10. 1 S 36. 10. 27	25	西 谷 正 信	H 5. 4. 1 H 8. 3. 31
6	三 島 主 計	S 36. 11. 28 S 38. 3. 31	26	中 井 友 好	H 8. 4. 1 H 10. 3. 31
7	堀 井 憲 一	S 38. 4. 1 S 41. 3. 31	27	須 崎 久 康	H 10. 4. 1 H 12. 3. 31
8	川 上 信 明	S 41. 4. 1 S 44. 3. 31	28	三 木 和 夫	H 12. 4. 1 H 16. 3. 31
9	荒 木 庄 平	S 44. 4. 1 S 44. 12. 1	29	渡 邊 繁 治	H 16. 4. 1 H 18. 3. 31
10	藪 下 勉	S 44. 12. 2 S 46. 3. 31	30	金 澤 耕 三	H 18. 4. 1 H 20. 3. 31
11	荒 木 庄 平	S 46. 4. 1 S 46. 6. 5	31	小 林 英 登 志	H 20. 4. 1 H 24. 3. 31
12	浦 野 政 秋	S 46. 6. 6 S 47. 9. 30	32	中 川 靖 夫	H 24. 4. 1 H 26. 3. 31
13	荒 木 庄 平	S 47. 10. 1 S 48. 11. 9	33	角 野 正 明	H 26. 4. 1 H 27. 3. 31
14	秋 山 猛	S 49. 1. 1 S 54. 9. 30	34	河 合 宏 昭	H 27. 4. 1 H 30. 3. 31
15	藤 井 猛	S 54. 10. 1 S 55. 3. 31	35	洲 崎 真 治	H 30. 4. 1 R 4. 3. 31
16	細 谷 義 信	S 55. 4. 1 S 57. 3. 31	36	香 西 秀 紀	R 4. 4. 1 R 6. 3. 31
17	山 本 雅 夫	S 57. 4. 1 S 58. 9. 30	37	林 豊 茂	R 6. 4. 1 現在に至る
18	浦 野 政 秋	S 58. 10. 1 S 59. 3. 31			
19	高 木 祥 一	S 59. 4. 1 S 60. 3. 31			
20	浦 野 政 秋	S 60. 4. 1 S 60. 9. 30			

11 歴代消防署長

歴代	氏 名	期 間	歴代	氏 名	期 間
1	荒 井 信 一	S47. 10. 1 S50. 7. 1	16	金 澤 耕 三	H17. 4. 1 H18. 3. 31
2	高 木 祥 一	S50. 7. 2 S59. 3. 31	17	塩 崎 澄 男	H18. 4. 1 H20. 3. 31
3	久保田 和 男	S59. 4. 1 S63. 3. 31	18	國 重 貞 夫	H20. 4. 1 H22. 3. 31
4	三 木 昭	S63. 4. 1 S63. 9. 30	19	河 邊 秀 高	H22. 4. 1 H23. 3. 31
5	須 崎 久 康	S63. 10. 1 H 4. 3. 31	20	國 重 貞 夫	H23. 4. 1 H24. 3. 31
6	十 川 清 行	H 4. 4. 1 H 5. 3. 31	21	角 野 正 明	H24. 4. 1 H26. 3. 31
7	須 崎 久 康	H 5. 4. 1 H 7. 3. 31	22	藤 井 浩 二	H26. 4. 1 H28. 9. 30
8	松 尾 雅 水	H 7. 4. 1 H10. 3. 31	23	寺 井 浩	H28. 10. 1 H31. 3. 31
9	木 村 圭 一	H10. 4. 1 H12. 3. 31	24	小 原 充 純	H31. 4. 1 R3. 9. 30
10	古 川 孝 俊	H12. 4. 1 H14. 3. 31	25	林 豊 茂	R3. 10. 1 R6. 3. 31
11	福 本 勝	H14. 4. 1 H15. 3. 31	26	野 角 浩 司	R6. 4. 1 現在に至る
12	三 木 和 夫	H15. 4. 1 H15. 8. 31			
13	福 本 勝	H15. 9. 1 H16. 1. 31			
14	三 木 和 夫	H16. 2. 1 H16. 3. 31			
15	阿 河 義 弘	H16. 4. 1 H17. 3. 31			

12 消防職員勤続年数状況（再任用含む）

（令和8年4月1日現在）

階 級 年 数	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	そ の 他	計
0 年						2	1	3
1 年						4		4
2 年						6		6
4 年						1		1
5 年						1		1
6 年					1	1		2
7 年				1	1	2		4
8 年				1	2			3
9 年				1	2			3
10 年				1	1			2
11 年				5				5
12 年				4				4
13 年				1				1
14 年				3				3
15 年			1	2				3
17 年			1	1				2
18 年				1				1
19 年			1					1
20 年			1					1
21 年			4					4
22 年			2					2
23 年			4					4
24 年		1	1					2
25 年			2					2
26 年			2					2
27 年		1	2					3
28 年		1						1
32 年		2						2
36 年	1	1						2
37 年		3						3
38 年			3					3
41 年		2						2
44 年				1				1
計	1	11	24	22	7	17	1	83

13 消防職員階級別年齢状況（再任用含む）平均年齢38.8歳（令和8年4月1日現在）

階級 年齢	消防 長司令	消防 司令	消防 補司令	消防 士長	消防 長副士	消防 士防	その他	計
18 歳						2		2
19 歳						1		1
20 歳						1		1
22 歳						3		3
23 歳						1		1
24 歳					1	2		3
25 歳						3		3
26 歳						1		1
27 歳				1		2		3
29 歳				2				2
30 歳				1		1		2
31 歳				4				4
32 歳				2	2			4
33 歳				1	1			2
34 歳				3	1			4
35 歳				3	2			5
37 歳			1					1
38 歳				1				1
39 歳			1					1
40 歳				2				2
42 歳			1				1	2
43 歳			1					1
44 歳			2					2
45 歳			3	1				4
46 歳			2					2
47 歳			4					4
48 歳		1						1
49 歳			3					3
50 歳		3	1					4
51 歳		1	2					3
55 歳		1						1
56 歳		2	3					5
58 歳		1						1
59 歳	1	2						3
62 歳				1				1
計	1	11	24	22	7	17	1	83

消防職員特殊技能資格者状況（再任用含む）

（令和8年4月1日現在）

階 級 資格種別	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消 防 士	その他	計
実 員	1	11	24	22	7	17	1	83
大 型 （ I ・ II 種 ）	1	11	23	21	5	4	0	65
中 型 免 許	1	11	23	4	0	1	0	40
準 中 型 免 許	0	0	1	15	6	4	0	26
普 通 免 許	1	11	24	22	7	17	1	83
自 動 二 輪 （ 大 ・ 普 ・ 小 型 ）	1	9	16	14	3	8	0	51
自 動 車 整 備 士	0	0	0	1	0	0	0	1
無 線 従 事 者	0	11	19	3	2	6	0	41
救 急 （ II ・ 標 準 ） 課 程	0	10	22	18	3	11	0	64
救 急 救 命 士	1	6	12	10	3	3	0	35
指 導 救 命 士	0	1	4	0	0	0	0	5
認 定 （ 薬 剤 ・ 挿 管 ） 救 命 士	1	4	12	8	2	3	0	30
認 定 （ 心 停 止 前 ・ 血 糖 静脈路確保 ・ 測定 ） 救 命 士	0	4	11	10	3	3	0	31
応 急 手 当 指 導 員	1	3	4	3	1	6	0	18
予 防 技 術 資 格 （ 防 火 査 察 ）	0	5	8	12	3	0	0	28
予 防 技 術 資 格 （ 消 防 用 設 備 等 ）	0	2	5	4	1	0	0	12
予 防 技 術 資 格 （ 危 険 物 ）	1	3	6	5	1	0	0	16
玉 掛	0	9	16	9	2	0	0	36
小 型 移 動 式 ク レ ーン	1	8	13	10	2	0	0	34
可 搬 消 防 ポ ンプ 整 備	0	2	0	0	0	0	0	2
電 気 工 事 士	0	0	1	0	0	2	0	3
酸 素 欠 乏 危 険 作 業 主 任	0	4	12	9	1	2	0	28
ガ ス 溶 接	1	2	7	4	0	1	0	15
小 型 船 舶 操 縦 士	0	5	5	1	1	1	0	13
潜 水 士	0	4	12	10	2	3	0	31
安 全 衛 生 管 理 者	0	2	0	0	0	0	0	2